

★ フナアオシャチホコの食害

平成19年、八甲田山周辺でフナアオシャチホコの食害が発生しました。

フナアオシャチホコはシャチホコガ科のガで、北海道から九州まで分布します。北海道南部や東北地方のブナ林で8～12年おきに大発生しますが、2～3年で終息し、ブナが枯死することはほとんどありません。

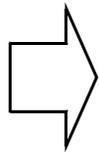
食害は、ブナが分布する標高帯のうち、上部の方の標高差200mのところ帯状に発生し、標高の低いブナ林では大発生は見られません。



食害で葉がなくなったブナ林



幼虫



成虫

年1世代。6月頃に ^{さなぎ} 蛹 から成虫になり、卵を20～100粒ずつブナの葉の裏面に平面状に産む。卵からかえった幼虫による食害量が多くなるのは8月上～中旬でこの頃被害が目立つ。8月下旬～9月上旬に幼虫は地上に降り、落葉層に薄い繭 ^{まゆ} をつくり ^{さなぎ} 蛹 になって越冬する。

フナアオシャチホコの天敵



幼虫を食べるクロカタビロオサムシ

分布：北海道、本州、四国、九州。

^{さなぎ} 蛹 の9割以上がサナギタケの感染を受ける



^{こうちゅう} 甲虫

フナアオシャチホコが大発生すると ^{こうちゅう} 甲虫 の「クロカタビロオサムシ」も大発生し、フナアオシャチホコの幼虫や ^{さなぎ} 蛹 を食べてしまいます。また、^{とうちゅうかそう} 冬虫夏草 の一種である「サナギタケ」という菌がフナアオシャチホコの ^{さなぎ} 蛹 に感染します。

これまでも、八甲田や岩木山のブナがフナアオシャチホコの大発生で食害されたということが起こっていますが、それによってブナが死滅したり、フナアオシャチホコの食害が長年続いたということはありません。自然界は時には、このような食害を大発生させますが、それに対応する天敵が発生するなどして自然自らの力によって、再び平穏な姿を保ち続けます。

太古の時代から、このような営みが繰り返されてきたのでしよう。